

調査報告書

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600636		
法人名	有限会社 新名防災設備		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地	香川県仲多度郡多度津町葛原451番地1		
自己評価作成日	平成27年7月22日	評価結果市町受理日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

接客サービスの専門職として、当り前の事を利用者目線で行き、第二の家としての家庭的な雰囲気を作り、本人らしく穏やかに暮らせるように努めている。

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社astream alliance		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成27年8月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

管理者、職員が「日常生活の充実と笑顔で過ごせる時間の提供」を目標に、要約された4つの実践的理念を念頭にどの分野においても高いレベルのサービスが一体的に提供されている。管理者と職員の風通しがよく考え方がしっかり共有されており、ぶれない対応ができています。入居時には家族としっかり話し合い、場合によっては他の施設や病院を紹介するなど、本人にとって何が幸せなのかを常に配慮した対応ができています。そのような姿勢が家族との信頼関係となり良好な関係が構築できている。家族からの要望に関しては、管理者を中心に迅速対応しサービスの見直し等を行いさらに良いサービスが行えるよう努力している。共有空間はもちろん、居室やトイレ等も清潔に保たれており、利用者の皆さんが居心地良く快適に過ごせるように配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 :3771600636					
1	(1)	○理念と共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念4項目を毎朝、申し送り後に全員で復唱し共有している	毎朝の申し送り時に、事業所の基本理念である4項目「優しく接します」「寂くさせません」「一緒に行動いたします」「本人が理解できる接し方をいたします」がその日の出勤職員全員で唱和されており、その後気付いた点などが話し合われて実践に活かされる工夫がなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員としての日常的に交流している	地域行事(草刈、水路掃除など)には積極的に参加するように努めている。地域で生産している農作物を購入している	町内会長からの声掛けにより、地域の一員として清掃活動等に定期的に参加されている。利用者や家族近隣住民とのつながりの輪が広がり慰問などの交流も自然と増加している。近所での買い物や散歩時も声掛けしてもらえるなど関係が深まっている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修などを開催し地域の一員としてサポート出来るよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、活動報告や取り組みについて伝え自治体や家族の方々と意見交換等を行いサービス向上に努めている	繁忙の中、年6回開催されている。また、ご家族代表の参加者が同じ方ばかりにならないような工夫がなされている。行事や事故の報告などに加え、情報交換の場としても機能されており、近隣の幼稚園が工作用として段ボールを集めていることが分かると早速月に1度定期的に届けてあげるなど地域活動に活かされた取組もなされている	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設のサービスを理解して頂いた上でその時々で連絡を取り合い連携を図っている	日頃から連携を密にとられ、認知症サポート講座やおしどり会のお手伝いを事業所が行うとともに、町の介護保険事業計画策定委員に管理者がなられるなど協力関係が築かれている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠について現在は実施している。利用者の安全を守る為には必要性があると考えている	点滴中に利用者に寄り添い見守り続けることや、医師との相談で精神科の投薬を減らす努力をするなど、具体的に工夫されたケアが実施されている。玄関の施錠については防犯上やご家族の要望などの理由で行われているが、季節や天候などを勘案して開放する時間を増やす努力がなされている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	専門職として各自、自覚を持つ事と精神的フォローの両面からサポートし防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が行政他、関係者と話し合い活用出来るように支援している。職員は個々の必要性について理解するように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が書面等にて理解、納得して頂けるように説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したりご家族の面会時に意見をお伺いしている	家庭の事情にもよるが、毎月支払い時になるべく足を運んでもらうことで、面会や職員との良い関係づくりの機会として活かされている面会時にご家族からの要望で始まった塗り絵や折り紙が、他の利用者にも広まり現在は、レクリエーションとして定着している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を年1回～2回程度実施している	事務長が常に現場に入り、積極的に意見交換がなされている。また、中間職員が代表して管理者にチームの状況を報告し、検討した結果を持ち帰り連絡ノート等で周知するシステムが機能している。さらに、事務長により必要時に加えて年に1回は、定期個人面談が行われている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談などを行い、仕事に対する姿勢を確認し適材適所の人事で本人がやりがいを持てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期に施設内研修等を行いスタッフのスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議等には、出来る限り参加し交流を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に施設見学や面談を行い、本人様とお話する機会を設け関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までに何度か家族等と電話や面談にて話し合い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居だけではなく在宅サービス等についても提案し家族と一緒に考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で食事後の食器拭き、洗濯物たたみ、季節の壁飾り作成などできる限り一緒に行い家族として一緒に生活しているという関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時に日頃の状態を伝え職員と話しやすい雰囲気を作り信頼関係が築けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類などが面会に来られた時にゆっくり過ごせるようにしている 家族とも話し合いながら施設で出来る対応と家族での対応にて外出支援に努めている	家族や親戚、友人等が訪問しやすい雰囲気づくりがなされている。また、可能なご家族には、お墓参りや帰宅、外食等の協力を依頼し馴染みの関係が途切れないような支援が行われている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に過ごせるようにしている。レクリエーションの時間を設けたり、食器拭きなど一緒にして頂いている。利用者同士で会話をしているがトラブルになりそうな時は見守りや仲裁を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティア等に来られたりと関係性は継続している。その都度、近況を確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で話し合いを持ち、集団生活の中でも可能な限り、利用者本位で対応するように努めている	重度化などにより、本人の意向が把握しづらくなった利用者には、ご家族の意向に加え、ちよつとした表情や行動の変化などから本人の気持ちを汲み取り支援を行おうとする職員の姿勢が随所に感じられるケアが実施されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人、家族の生活歴などを確認し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態は生活記録として日々記録し、一日の過ごし方や現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態やケア内容等について、他職種や関係者と話し合いを持ち情報交換、検討し、計画の見直しを行っている	日頃の生活状況、介護計画は現場の職員が利用者全員を把握できている。また、状況の変化に合わせて計画も見直しが行われており、会議には本人、家族、スタッフが同席してチームの介護計画の作成にあたっている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記などがあれば申し送りノートに記入し、情報を共有し計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだから出来る、個々の細かいニーズに対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方を積極的に受け入れ、地域社会とのつながりを大切に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に確認後、特に希望がない時は協力医療機関でかかりつけ医を決めている。毎月、定期受診時に状態報告や相談を行い、特変時に対応できるよう連携を図っている。他の医療機関に受診時は家族の協力を得て支援している	特に希望がない場合は、本人やご家族の負担も考慮して協力医療機関での定期的な往診で対応されている。他の医療機関希望の利用者にもご家族の協力を得ながら連携がなされており、緊急時等には職員による受診支援も行われている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時や個々の状態に合わせて看護職員と連携をとり対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者のお見舞いに行き状態を確認し、家族や病院関係者と随時、連絡をとり早期に退院でき受け入れられるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状況により施設で出来る対応について家族に説明、話し合いを行い施設との相違がないように方針を共有しチームケアで取り組んでいる	医療機関の協力もあり、5年前から終末期のあり方を本人、ご家族と事前に相談し、終末の看取りを選択肢の1つとして実践している。また最期の時間をご家族と共に過ごせる環境が整えられている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED等の使用講習なども行い、急変時に対応できるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、今後の課題等も話し合い、不測の事態に対応できるよう努めている	年2回の避難訓練が実施されており、夜間や水害に対する訓練も行われている。また、避難所としての機能も期待されており、近隣の防災拠点の1つとして指定避難所の計画が現在検討されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全員がサービス業のプロとしての自覚を持ち、個々の人格を尊重し、同じ目線で接するように努めている	先回りしないケアを心掛け、日頃の何気ない言葉かけや支援の手順などから尊厳が保持されたケアの提供がしっかりとした理念の共有に基づきチームとして行われている体制がみられる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動に配慮し、会話の中に必ず選択肢を設け、一方的なやり取りにならないように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活で職員側が優先する事もあるが、出来る限り声かけを行い、希望に添えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、衣類など常に身なりを綺麗にし、おしゃれにも気を配り、満足して頂けるように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が調理し食べやすいように工夫している。職員も同じ物をテーブルで会話をしながら一緒に食べている。食事前手指消毒や食器の片付けなど一緒にしている。随時、外食を行い楽しみが持てるように支援している	季節の旬が味わえるメニューづくりや、気分に合わせた外食の実施などが行われている。家庭的な雰囲気のもと、各自のペースに合わせた食事が行われる配慮もされている。また、片付けやおやつづくりなど利用者も参加した食事を楽しむ支援が行われている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量と水分量をチェックして個々の状態把握を行っている。日々の体調に合わせて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員と共に口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がある方も個々の状態や体調によって、出来る限りトイレでの排泄支援を行っている	日中はできる限りトイレでの排泄支援が行われている。夜間は良眠とのバランスを考慮しパンツタイプの紙おむつ等を使用している方もおられるが、ポータブルトイレ等を使用した排泄介助も実施されており、個々の状況に合わせた支援が行われている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、下剤等の使用を最小限に出来るよう、日々の生活の中でコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	可能な限り対応出来るように努めており入浴出来ない方は清拭なので対応している。足浴はほぼ毎日行っている	週2回の入浴を実施、体調等の理由により入浴出来ない方には、清拭で代替え対応されている。また、汚れた場合等は、随時シャワー浴がなされている。さらに入浴日に限らず足浴は毎日実施されている	限られた人員の中で、シャワー浴や足浴の実施、毎日のパジャマへの更衣等清潔の保持に最大限尽力されているが、回数や時間帯等を含め更に向上に向けた取り組みを期待します
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて日中、休息したり夜間入眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個々の情報を把握し、状態変化など異常の早期発見に努めている 薬は施設で管理、その日の担当者が確認し、服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で食器拭き、おしぼりたたみ他、役割が持て、レクリエーションやおやつ作りなど小さな楽しみを沢山用意できるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食等は個々のニーズに合わせて特別感を一番に考えている 天気の良い日は、積極的に散歩等外出を行っている	時候の良い季節には、近所の直売所などへ散歩をしている。事業所のテラスなどで日光浴できる環境も整っている。外食時にはいつも食べられないようなご馳走を用意するなど、視覚や味覚を刺激するような特別感を大切に支援が行われている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し対応しているが殆ど使用する事はない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族からのニーズがあれば対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲は田畑があり景観は良く四季は感じやすくなっている 季節に合った飾り付けをして、温度、湿度、換気に配慮し清潔な環境でソファや椅子に座り、居心地よく過ごせるように努めている	室内はガラス戸を多用し、採光に注意が払われている。共用空間は広く清潔で適度にテーブルや椅子、ソファを配置している。壁面は所々に季節感の感じられる手芸作品や利用者の作品が飾られている。浴室やトイレなどは、利用者の視野に入りにくいよう配慮されている。また、居室やトイレを含めて隅々まで清掃が徹底されており、清潔感が感じられる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファを設置し、個々のペースに合わせた生活を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族のニーズに合わせて家具やテレビなども持ち込まれている	居室にはなじみの家具が持ち込むことが可能となっている。ベッドにフローリング、布団に絨毯など利用者の状況に合わせた対応がなされている。また、居室替えなどについては、特別な事情がない限り行わず、本人が慣れた所で支援できるよう配慮されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間の配置替えはあまり行わず、慣れた環境で混乱がないように本人の能力を生かし、自立した生活が出来るように努めている		